

JR 連合グループ労組連絡会

第21回分科会プロジェクトを開催



挨拶する奥村代表幹事



12月6日・大阪市内において開催され、貨物連合より2名が出席しました。

会の冒頭、挨拶に立ったJR連合奥村グループ労組代表幹事は、「2024春闘では多くの単組で昨年以上のベアを勝ち取る事が出来たが、物価上昇の勢いは凄まじく、一部の労組では実質賃金が目減りしている。本日の分科会討議では、2025春闘に向けての素案や現状課題を共有し、活発な議論をお願いしたい」と述べられました。

来賓挨拶では、JR連合荻山会長が、2025春闘に向けての強い決意を述べ、JR産業において大きな事象が続いていることに懸念を示し、重大

事象・重大労災撲滅を強く訴えました。

続いて、住吉局長より「2025春闘を取り巻く情勢とJR連合の闘争方針」について、パワーポイントを使いながら、金額設定の根拠や課題について説明がありました。

分科会討議では、貨物連合は陸運部会に入り、「高齢社員の安全確保、脳ドックやSAS、運転手の免許取得社内制度の改正、構内車のナンバー取得」など活発な議論を行い、陸運分科会を代表し、南関東ロジ労組の山田委員長が演題にて分科会の協議事項について発表を行いました。



最後に、奥村代表幹事による「団結ガンバロー」で会を終えました。

